

## 文化遺産総合活用推進事業 実施計画

1 都道府県・市区町村名	明石市	2 補助事業の種類	地域文化遺産活性化
3 実施計画の名称	明石市の文化遺産総合活用推進事業		
4 実施計画期間	平成 29 年度 ～ 平成 33 年度		
5 実施計画の概要			
<p>明石市文化芸術創生条例（平成21年）を踏まえ、次の事業を実施する。</p> <p>(1) 地域にある身近な文化財を活用したウォーキング・記録作成などの普及啓発と成果物の配布などによる情報発信</p> <p>(2) 史跡明石城と関連文化財群を広く紹介する普及啓発等</p> <p>(3) 市内の民俗文化財群を調査し、それらを記録保存した冊子を刊行、発表会の開催</p> <p>(4) 市内に現存する地域固有の伝統芸能及び民俗芸能に関する用具の修繕、後継者育成等</p> <p>(5) 布田太鼓等の伝統的な文化遺産の記録・保存、それを公開する報告会の開催</p> <p>また、本事業に参画する文化財保存団体や伝統文化保護団体等と連携し、当事業を遂行することにより、市民の伝統文化等に対する意識の向上及び観光客の増加につなげていく。</p>			
6 実施体制			
<p>本事業については、明石市が全体計画の企画、調整、事業の指導等を行う。</p> <p>主な担当課、役割</p> <p>文化・スポーツ室文化振興課：伝統文化の後継者育成に関する指導及び文化財の保護・啓発等に関する指導等</p> <p>また、事業の実施については、次の団体が実施。</p> <p>明石市の文化遺産を活かした地域活性化実行委員会（会長：大村敬通）  （「⑤実施計画の概要」における全ての事業を実施。）  構成メンバー（明石市文化財審議会委員2名、NPO法人代表、明石観光協会前会長、明石市文化団体連合会役員）</p>			
7 実施計画における目標と期待される効果		別紙①のとおり	
8 補助事業の概要	(1) 補助金額	～平成28年度交付決定額： 83,560 千円	平成29年度申請額： 10,966 千円
(2) 実施事業の概要		別紙②のとおり	
9 その他計画実施により想定される効果（定性的な効果を記載）			
<p>1. 想定される効果</p> <p>(1) 文化財の調査研究や普及啓発を市民団体が主体的に担い、市民目線で事業を推進することで、より効果的な市民との連携や広報活動が行え、これを機に交流が少なかった行政とも更なる事業の連携や事業効果の拡大が期待できる。</p> <p>(2) 散逸の危機にある多様な身近な文化財を保存し後世に継承できることが期待できる。</p> <p>(3) 市民への文化財等に対する意識の向上、興味関心の喚起が期待できる。</p> <p>(4) 市外からの観光客の増加が期待できる。</p> <p>2. 効果の測定方法</p> <p>(1) 各事業の参加者へアンケート等を実施するとともに、事業実施団体から事業結果・効果について報告を受け、効果を測る。</p> <p>(2) 市関係部局が実施する観光・文化芸術及び文化財に関する統計の分析を行う。</p>			
10 その他事業（自主財源、民間団体、他省庁等からの補助（支援）を予定している事業など）			
事業概要：	1. 伝統文化の親子教室事業（補助事業） 子どもたちが民俗芸能や邦楽、茶道、華道など地域の伝統文化に触れる機会を設け次世代に継承を図る。		
事業概要：	2. 第19回明石薪能の開催（市単独事業） 伝統芸能を継承するとともに、市民に優れた舞台芸術を鑑賞する機会を提供することにより伝統文化に親しむ機会の拡充を図る。		
事業概要：	2. 第19回明石薪能の開催（市単独事業） 伝統芸能を継承するとともに、市民に優れた舞台芸術を鑑賞する機会を提供することにより伝統文化に親しむ機会の拡充を図る。		

11 「歴史文化基本構想」の策定や「歴史的風致維持向上計画」の作成・認定に向けた計画の見込等

平成29年度の事業を通し、市内の歴史文化の特性を把握し、平成30年度より5ヶ年計画で、市内の観光や政策、都市計画の部署と連携して「明石歴史文化基本構想」を策定する予定である。

12 担当部局

地方公共団体 担当部局課	明石市市民生活局 文化・スポーツ室 文化振興課 文化財係
-----------------	------------------------------

## 7 実施計画における目標と期待される効果 別紙

目標区分 1 :	地域の文化資源を活用した集客・交流					
評価指標区分 1 :	地域の文化遺産への来場者数 (具体的な指標は次のとおり)					
具体的な指標 1 :	明石城櫓等、文化遺産施設への来場者数			関連事業 :	⑥	
目標値 1 :	平成 28 年度 5,000 人 ⇒ 平成 33 年度 12,440 人					
設定根拠 1 :	平成27年度明石観光入込客数の伸び率1.2倍を参考として、毎年度伸び率1.2倍と設定					
進捗状況 1 :	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	
人	人	人	人	人	人	
目標区分 2 :	地域の文化資源を核としたコミュニティの再生・活性化					
評価指標区分 2 :	地域に誇りを感じる住民の割合 (具体的な指標は次のとおり)					
具体的な指標 2 :	地域住民意識調査の「地域に愛着を感じる」の割合			関連事業 :	①②③④⑤⑦⑧	
目標値 2 :	平成 28 年度 55 % ⇒ 平成 33 年度 58 %					
設定根拠 2 :	平成28年度までの毎年度平均伸び率0.3%に対し、2倍の0.6%を設定					
進捗状況 2 :	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	
%	%	%	%	%	%	
目標区分 3 :	伝統文化の継承体制の維持・確立					
評価指標区分 3 :	祭礼行事等の保存会会員数、保存団体数 (具体的な指標は次のとおり)					
具体的な指標 3 :	実施計画団体の保存会の会員数			関連事業 :	⑨～⑳	
目標値 3 :	平成 28 年度 500 人 ⇒ 平成 33 年度 550 人					
設定根拠 3 :	市内10団体の年間増平均が10人であることから設定					
進捗状況 3 :	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	
人	人	人	人	人	人	

## 8 (2) 実施事業の概要 別紙

事業①：	仮称「江井島の歴史を伝えよう」冊子を作る	実施団体：	江井島コミュニティ推進協議会			
事業区分：	情報発信	事業期間：	平成 29 年度 ～ 平成 33 年度			
事業概要：	<p>広く住民に江井島校区（小学校区）の遺跡、酒蔵等の建造物に関する取材をし、昨年度の調査においてまとめた資料とを合わせた冊子を作成する。暮らしに密着し、住民とつくる地域史となるように取り組み、専門家にも監修を依頼する予定である。住民と協力して作成することによって地域への関心をより広げ、街への愛着や誇り、文化遺産への保存意欲向上や地域活性化につなげる。</p>					
評価指標区分：	・ホームページ閲覧数（PV数）			（具体的な指標は次のとおり）		
具体的な指標：	文化遺産を紹介した冊子の内容を江井島コミュニティセンターのホームページ上に上げ、その閲覧数					
目標値：	平成 28 年度	200 人	⇒	平成 33 年度	600 人	
進捗状況：	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	
人	人	人	人	人	人	
事業②：	「明石の文化遺産」発信・活用事業	実施団体：	ヘリテージ明石			
事業区分：	情報発信	事業期間：	平成 29 年度 ～ 平成 33 年度			
事業概要：	<p>地域住民や学生たちと協働し、建造物や明石市中心市街地の西国街道沿いの古いまちなみを形成する地域の固有の資源を掲載した文化遺産のマップを作成し、地域内外に配布し、明石の文化遺産の発信に努める。この情報発信により、文化遺産を再認識し積極的な維持保全や地域の活性化を図る。また地域外の方々に地域の建物・まちなみを地域固有の資源と組み合わせて発信することにより、地域の特徴や良さをより認識してもらえると考える。またヘリテージマネージャーを中心にまち歩きを行い、ガイド講師の育成も図る。</p>					
評価指標区分：	・ホームページ閲覧数（PV数）			（具体的な指標は次のとおり）		
具体的な指標：	ひょうごヘリテージ機構のホームページに調査内容等を掲載、その閲覧数					
目標値：	平成 28 年度	1,000 人	⇒	平成 33 年度	5,000 人	
進捗状況：	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	
人	人	人	人	人	人	
事業③：	江井島の昔のはなしを聞き記録・発信する	実施団体：	江井島コミュニティ推進協議会			
事業区分：	普及啓発	事業期間：	平成 29 年度 ～ 平成 33 年度			
事業概要：	<p>江井島の古い昔の暮らしや慣習などを聞く会を年4回開催、また内容を記録する。各回80歳以上の高齢の住民3名程度から聞き取る。聞き取りの内容は70年ほど前の仕事、村の様子、学校、遊び、災害、冠婚葬祭、また近隣の助け合いについて等を予定している。話し手の高齢者にとっては地域へ貢献している意識が芽生え、参加者は地域の昔の暮らしや歴史を知ることによって愛着や誇りにつながる。内容を冊子にまとめ、それを学校や地域学習の場で用いて、地域の伝統文化についての理解を深めさせる。</p>					
評価指標区分：	・地域の文化遺産イベント等（本事業の取組を除く）におけるソーシャルキャピタル数（協賛企業・団体、賛同者等）			（具体的な指標は次のとおり）		
具体的な指標：	江井島地域の文化遺産継承に関わる協賛企業団体数					
目標値：	平成 28 年度	1 団体	⇒	平成 33 年度	5 団体	
進捗状況：	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	
団体	団体	団体	団体	団体	団体	

事業④：	文化遺産にふれあう「まち歩き探検」	実施団体：	江井島コミュニティ推進協議会			
事業区分：	普及啓発	事業期間：	平成 29 年度 ～ 平成 33 年度			
事業概要：	地域住民と連携し地域に点在する遺跡等を巡る催しを開催する。平成27年度に作成した遺跡マップを利用し、文化遺産にふれあう。					
評価指標区分：	・地域の文化遺産イベント等（本事業の取組を除く）におけるソーシャルキャピタル数（協賛企業・団体、賛同者等）			（具体的な指標は次のとおり）		
具体的な指標：	江井島地域の文化遺産継承に関わる協賛企業団体数					
目標値：	平成 28 年度	1 団体	⇒	平成 33 年度	5 団体	
進捗状況：	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	
団体	団体	団体	団体	団体	団体	
事業⑤：	明石の石碑拓本採取	実施団体：	江井島コミュニティ推進協議会			
事業区分：	普及啓発	事業期間：	平成 29 年度 ～ 平成 33 年度			
事業概要：	江井島地域住民を対象に30名ほど募集し実施する。講師を招き、拓本について学ぶ。江井島地域内の石碑・道標等の史跡の拓本を採取する。また地域のコミセン祭りなどで展示発表をする。					
評価指標区分：	・地域の文化遺産イベント等（本事業の取組を除く）におけるソーシャルキャピタル数（協賛企業・団体、賛同者等）			（具体的な指標は次のとおり）		
具体的な指標：	江井島地域の文化遺産継承に関わる、協賛企業団体数					
目標値：	平成 28 年度	1 団体	⇒	平成 33 年度	5 団体	
進捗状況：	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	
団体	団体	団体	団体	団体	団体	
事業⑥：	史跡明石城を活かした普及啓発事業	実施団体：	明石葵会			
事業区分：	普及啓発	事業期間：	平成 29 年度 ～ 平成 33 年度			
事業概要：	専門家や研究者と連携し、史跡明石城について、様々な角度からその実態を明らかにし、冊子の作成、シンポジウムを通して、普及啓発を図る。平成29年度は、明石葵会会員が所蔵する絵図や古文書の一覧をデータ化するとともに、各地に所蔵されている明石城を描いた絵図の集成を行い、記録集を300部作成する。また、専門家を招いて史跡明石城と城下町の姿、そこで暮らしていた人々の様子等を探るシンポジウムを開催し、地域の貴重な文化遺産である明石城により多くの人が興味と関心を抱いてもらい、文化遺産の次世代継承を図る。					
評価指標区分：	・その他			（具体的な指標は次のとおり）		
具体的な指標：	明石城への年間入場者数					
目標値：	平成 28 年度	5,000 人	⇒	平成 33 年度	12,440 人	
進捗状況：	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	
人	人	人	人	人	人	

事業⑦：	明石の布団太鼓プロジェクト	実施団体：	明石の布団太鼓プロジェクト
事業区分：	調査研究	事業期間：	平成 25 年度 ～ 平成 31 年度
事業概要：	<p>平成29年度においては、これまでの調査・研究対象に布団太鼓・だんじり・獅子舞に加えて、祭礼・神事及び行事等についても、写真・映像・音声など貴重な資料をさらに収集すると同時に、これまでに収集された動画や音声による記録資料を多くの人に公開するために報告会を行う。</p> <p>【調査研究内容】関連文書・写真・記録等の資料及び証言・伝承等の情報の収集/現存する各布団太鼓・だんじり・獅子舞等の運用、保管状況の記録/各地域の祭礼・神事及び行事等の実施状況の記録（写真・映像・音源等）/収集資料の保存：データ化、閲覧システムの構築</p>		
評価指標区分：	(リストから選択してください。)		(具体的な指標は次のとおり)
具体的な指標：	明石の布団太鼓フェイスブックページにデータベース公開後の閲覧数		
目標値：	平成 31 年度	100 回	⇒ 平成 33 年度 300 回
進捗状況：	各年度、状況値、目標に対する達成率		
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度
回	回	回	回
事業⑧：	明石の民俗文化財に関する調査研究	実施団体：	明石市の民俗文化財調査団
事業区分：	調査研究	事業期間：	平成 26 年度 ～ 平成 30 年度
事業概要：	<p>人々の生活に密接に関わるテーマを毎年設定し、それに沿った民俗文化財等の市内悉皆調査を実施、現在失われつつある伝統文化を記録化する。調査では、地域住民に協力をあおぎながら、地域に残る民具・写真・絵図・古文書の収集や古老への聞き取りなどを行う。古文書の解読・研究については、外部の有識者に協力を依頼する。調査後は報告書にまとめ、地域の公民館等に配布する。また、調査で明らかになったことを中心に地元の公民館を使って報告会を開催する。平成29年度は明石城の周りに形成された城下町を対象とし、江戸時代以降続いている魚町（魚の棚）や鍛冶屋町などにおける商工業に見る地域性を抽出し、記録化する。</p>		
評価指標区分：	(リストから選択してください。)		(具体的な指標は次のとおり)
具体的な指標：	成果物の自主増刷		
目標値：	平成 30 年度	年間500 冊	⇒ 平成 33 年度 年間500 冊
進捗状況：	各年度、状況値、目標に対する達成率		
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度
冊	冊	冊	冊
事業⑨：	小久保三社神社秋祭りに使用する用具の修繕及び公開事業	実施団体：	小久保村
事業区分：	用具等整備	事業期間：	平成 29 年度 ～ 平成 33 年度
事業概要：	<p>秋祭りに使用する先舞の面（おかめ、ひょっこ、天狗）及び獅子頭（雄獅子）が経年劣化で痛んできており、行事に使用する際支障があるため修繕を行い、氏子たちの行事への意欲向上をはかる。また行事のPRポスター・チラシ等を作成し、広く広報活動を行い地域住民の参加を促す。また氏子や地区の小中学生へ先舞、お囃子などへの参加を呼び掛け、技芸の継承・育成事業も実施する。校区間の交流、郷土の伝統行事の歴史文化学習のきっかけとなり、愛着や保護意欲を育むことで次世代継承、行事のさらなる活性化につなげる。</p>		
評価指標区分：	・祭礼行事への参加住民数		(具体的な指標は次のとおり)
具体的な指標：	小久保三社神社秋祭りに参加する人数		
目標値：	平成 28 年度	150 人	⇒ 平成 33 年度 300 人
進捗状況：	各年度、状況値、目標に対する達成率		
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度
人	人	人	人

事業⑩：	王子布団太鼓本体改修および公開事業	実施団体：	王子布団太鼓保存会
事業区分：	用具等整備	事業期間：	平成 29 年度 ~ 平成 33 年度
事業概要：	江戸時代に製作され、30年近く使用されないまま放置されていた布団太鼓が平成26年度に譲渡された。老朽化による傷みが各所に見られる。布団台の本体部分、飾り金具のメッキ剥がれ・欠損のほか、荷重をうける枡組や斗は割れが発生しているため修理を行う。また布団締めも破損が目立つため、部分的な生地の変換、水引幕用房も経年劣化により汚れが目立つため交換する。10月14日～15日の町内巡行にて地域住民にPRを行う。また地域のシンボルとして補修した布団太鼓を用い屋台練り等の指導をし、後継者の育成、伝統文化の次世代継承を実施する。		
評価指標区分：	・祭礼行事への参加住民数	(具体的な指標は次のとおり)	
具体的な指標：	小学生の王子神社秋祭りへの参加動員数		
目標値：	平成 28 年度	3 人	⇒ 平成 33 年度 <sup>8</sup> <sub>(4人×2グループ)</sub> 人
進捗状況：	各年度、状況値、目標に対する達成率		
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度
人	人	人	人
事業⑪：	鳥羽八幡神社秋祭りに使用する鳴太鼓の修繕	実施団体：	鳥羽町内会
事業区分：	用具等整備	事業期間：	平成 29 年度 ~ 平成 33 年度
事業概要：	秋祭りに使用する鳴太鼓を毎年3週間の練習と本番2日間、各年裏表と使用してきた。しかし毎年の叩き込みにより革が痛んでおり、使用する際支障が出ているため革を両面張替え、祭りに関わる者の意欲向上につなげる。また台練りや太鼓の叩き方の指導など後継者の育成事業を実施し、祭りの継承を図る。		
評価指標区分：	・保存会への新規入会者数	(具体的な指標は次のとおり)	
具体的な指標：	鳥羽八幡神社屋台保存会への新規入会者数		
目標値：	平成 28 年度	10 人	⇒ 平成 33 年度 50 人
進捗状況：	各年度、状況値、目標に対する達成率		
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度
人	人	人	人
事業⑫：	魚住住吉神社秋祭りに使用する布団太鼓の修理	実施団体：	西島自治会
事業区分：	用具等整備	事業期間：	平成 29 年度 ~ 平成 33 年度
事業概要：	魚住住吉神社の秋祭りは播州秋祭りの締めくくりの祭りでもある。布団太鼓の担ぎ棒に棒を縦断する大きなひび割れ、ささくれなどの劣化があるため、安全な巡行できるよう長棒4本、短棒4本の計8本を入れ替える。安全性が確保され、秋祭りの参加者の安心感、行事参加への意欲向上に繋がる。練りの指導などを行い、後継者育成・伝統行事の継承を図る。		
評価指標区分：	・祭礼行事への参加住民数	(具体的な指標は次のとおり)	
具体的な指標：	魚住住吉神社秋祭りでの布団太鼓の担ぎ手の増加 (現状100人よりの増加)		
目標値：	平成 28 年度	100 人	⇒ 平成 33 年度 200 人
進捗状況：	各年度、状況値、目標に対する達成率		
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度
人	人	人	人

事業⑬：	和坂秋祭りに使用する布団太鼓の修繕	実施団体：	和坂秋祭り実行委員会			
事業区分：	用具等整備	事業期間：	平成 29 年度 ～ 平成 33 年度			
事業概要：	和坂布団太鼓は天保8年の明神講帳、太鼓内部の記載から安永2年制作と近年判明した。次世代に引き継いでいくために、修理を実施する。太鼓蔵が戦火に見舞われた際に一部焼失した部分を修理したが、龍の金具部分の金メッキの補修が簡易なもので光沢もない。また銀色装飾金具部分が経年劣化による剥落や光沢の落ちが見られるため修繕をする。また修繕現場を保存会会員に公開し、歴史・太鼓のルーツ・囃子言葉の意味等伝承を行う。用具と合せてそれらの継承を行うことで、郷土や伝統行事への愛着や保護意欲の向上につなげ、全体の活性化を図る。					
評価指標区分：	・保存会会員数の変化（維持）			（具体的な指標は次のとおり）		
具体的な指標：	和坂布団太鼓保存会の会員数の変化（維持）					
目標値：	平成 28 年度		9 人		⇒ 平成 33 年度 60 人	
進捗状況：	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	
人	人	人	人	人	人	
事業⑭：	大蔵谷西之組用具新調事業	実施団体：	稲爪神社神楽獅子舞大蔵谷西之組			
事業区分：	用具等整備	事業期間：	平成 29 年度 ～ 平成 33 年度			
事業概要：	稲爪神社の秋季例大祭に奉納される神楽獅子舞で獅子方が使用する衣装は制作より十年以上がたち、表面の色が剥げ、破れたりしてきている。大事に取り扱ってきたが、獅子舞の激しい動きに耐えられなくなってきているため、様式はそのままを残し新調する。 会員の獅子舞の芸の所得の指導をし、太鼓の演奏技術の継承・向上も図る他、地域の小学生の会員獲得のために、小学校で行われる地域のイベント等で技芸を披露し参加を呼び掛けるなどの次世代継承に向けた活動も実施する。					
評価指標区分：	・保存会への新規入会者数			（具体的な指標は次のとおり）		
具体的な指標：	稲爪神社神楽獅子舞大蔵谷西之組への新規入会者数					
目標値：	平成 28 年度		3 人		⇒ 平成 33 年度 20 人	
進捗状況：	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	
人	人	人	人	人	人	
事業⑮：	大蔵谷獅子舞に使用する用具の修繕	実施団体：	大蔵谷獅子舞保存会			
事業区分：	用具等整備	事業期間：	平成 29 年度 ～ 平成 33 年度			
事業概要：	大蔵谷の獅子舞は戦国時代から伝承されたのが始まりとされている。今回修繕するかやは高価なものであり、保存会員の宝であるため大切に使用しているが、当保存会の芸風は荒々しく激しい踊りであり、飛ぶ、跳ねる、転び回る等の踊りが多くあるため、生地ほつれややぶれ、馬毛の抜け、小さな破損等が積み重なり傷みが相当ひどい状態である。9月までに修繕を完成させ、10月の秋祭りで使用する。伝統的な舞の技芸や演奏の継承を実施するほか、次世代継承に向けて親子教室も実施し地域の若年層の会員獲得に努める。					
評価指標区分：	・保存会会員数の変化（維持）			（具体的な指標は次のとおり）		
具体的な指標：	大蔵谷獅子舞保存会の会員数の変化（維持）					
目標値：	平成 28 年度		60 人		⇒ 平成 33 年度 85 人	
進捗状況：	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	
人	人	人	人	人	人	



事業⑯：	文化遺産継承事業に伴う用具等の新調	実施団体：	的射行事保存会				
事業区分：	用具等整備	事業期間：	平成 29 年度 ～ 平成 33 年度				
事業概要：	<p>祭事に着用する着物を用意し毎年着用してきたが、最近の青年の体格が大きくなり当保存会が保有する着物のサイズでは小さい現状である。地域の伝統ある神聖な祭事であるので、身丈にあった着物をきちんと着用し厳粛に遂行することで、見物人の好感につながり、保存会員や参加者の士気高揚や意欲向上につながると考える。また若年者に合う用具を用意することは、次世代への行事継承のためにも大変重要である。後継者育成として、行事の開催前から射手の若者に伝統的な作法等を指導し、伝統文化の継承を図る。</p>						
評価指標区分：	・保存会会員数の変化（維持）			（具体的な指標は次のとおり）			
具体的な指標：	的射行事保存会の現行役員 8 名を維持していく。						
目標値：	平成 28 年度		8 人	⇒	平成 33 年度		8 人
進捗状況：	各年度、状況値、目標に対する達成率						
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度		
人	人	人	人	人	人		
事業⑰：	大窪八幡宮 秋祭りに使用する用具修繕及び公開事業	実施団体：	西大窪自治会				
事業区分：	用具等整備	事業期間：	平成 29 年度 ～ 平成 33 年度				
事業概要：	<p>大窪八幡宮秋祭りに使用する和太鼓が経年劣化・老化でひび割れしており、安全に行事を実施するために張替修理を行う。修理を行い安心感を持って太鼓の練習を実施し、行事への参加意欲向上につなげる。修理は8月までに完了させ、9月に太鼓の練習をし、10月の大久保八幡宮秋祭りで使用する。自治会員獲得に努め、小中学生を中心に参加を呼び掛けるとともに、太鼓の技芸等を指導・伝承を実施する。</p>						
評価指標区分：	・保存会会員数の変化（維持）			（具体的な指標は次のとおり）			
具体的な指標：	西大窪自治会の保存会会員数の変化						
目標値：	平成 28 年度		350 人	⇒	平成 33 年度		600 人
進捗状況：	各年度、状況値、目標に対する達成率						
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度		
人	人	人	人	人	人		
事業⑱：	八木住吉神社秋祭りに使用する用具の補充	実施団体：	西八木自治会				
事業区分：	用具等整備	事業期間：	平成 29 年度 ～ 平成 33 年度				
事業概要：	<p>現在の法被は自治会員、祭り保存会、子供会役員及び子供会有志が着用しており、小太鼓は子供と子供会役員で担っているが、大太鼓の担ぎ手が少なく、法被もぎりぎりの状態となっている。地区の住民の約半数が新規入村者となり、この秋祭りは新規入村者と旧来の住民との貴重な交流の場でもある。揃いの法被を着用して祭りに参加することは祭りの一体感に繋がると考える。太鼓の担ぎ手に法被を貸出しできるように法被を補充し、地域住民の担ぎ手の補充につなげる。後継者育成として屋台練の指導・練習等の伝統継承も実施する。</p>						
評価指標区分：	・保存会への新規入会者数			（具体的な指標は次のとおり）			
具体的な指標：	西八木祭保存会への新規入会者数						
目標値：	平成 28 年度		90 人	⇒	平成 33 年度		150 人
進捗状況：	各年度、状況値、目標に対する達成率						
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度		
人	人	人	人	人	人		

事業⑱：	岩屋神社秋祭りに使用する用具の修繕及び公開事業	実施団体：	岩屋神社布団太鼓保存会			
事業区分：	用具等整備	事業期間：	平成 29 年度 ～ 平成 33 年度			
事業概要：	<p>岩屋神社秋祭りの布団太鼓は担ぎ手不足のため50年間途絶えていた。平成29年度に再興するにあたり、布団太鼓の布団締めが約70年の経年劣化により痛んでいるので修繕する。布団締めは目立つ場所であるので修繕し見栄えを良くし、地域住民の愛着を高め、布団太鼓および伝統行事の次世代継承につなげる。あわせて修理現場の一般公開を実施し、伝統行事の活性化を図る。公開は5月に行い修理は7月までに完了させ、秋祭りに使用する。</p>					
評価指標区分：	・保存会への新規入会者数	(具体的な指標は次のとおり)				
具体的な指標：	岩屋神社布団太鼓保存会への新規入会者数					
目標値：	平成 28 年度	24 人	⇒	平成 33 年度	100 人	
進捗状況：	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	
人	人	人	人	人	人	
事業⑳：	林神社秋祭りに使用する神輿の修理	実施団体：	ファミリーハイツ明石自治会			
事業区分：	用具等整備	事業期間：	平成 29 年度 ～ 平成 33 年度			
事業概要：	<p>神輿は入念に点検し、祭後は大切に保管するなど丁寧に扱ってきたが、正角の部分は巡行の際に木の枝等との接触しやすい部分であり、破損しやすい。当自治会で簡易な補修を施すなど努力をしてきたが、今年度は修理をし、見栄えがよくなった神輿で巡行することで祭りへの関心や意欲向上につなげたい。また、小学生を中心に広く太鼓の叩き手を呼掛け指導し、当地区での祭りの継承を図る。</p>					
評価指標区分：	・祭礼行事への参加住民数	(具体的な指標は次のとおり)				
具体的な指標：	林神社秋祭りへの参加者の増加（ファミリー住民、地域住民）					
目標値：	平成 28 年度	188 人	⇒	平成 33 年度	226 人	
進捗状況：	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	
人	人	人	人	人	人	
事業㉑：	春・秋祭りに使用する用具の修繕及び公開事業	実施団体：	山の下伝統行事保存会			
事業区分：	用具等整備	事業期間：	平成 29 年度 ～ 平成 33 年度			
事業概要：	<p>春・秋祭りや幼稚園、障がい者施設慰問などで使用する獅子頭が痛んでおり、行事に使用する際に支障が出るため修理をする。前年度までの用具の修理の効果として、見学者・参加者の増加がみられ、地域幼稚園の行事に組み込まれる等地域住民の関心も高まり、会員や山車の乗子も増加している。今年度も修理により伝統行事への愛着や青年会・保存会の安心感や意欲向上につなげたい。また青年会・保存会の後継者育成事業も併せて実施し、さらなる活性化を図る。</p>					
評価指標区分：	・保存会会員数の変化（維持）	(具体的な指標は次のとおり)				
具体的な指標：	山の下伝統行事保存会の保存会会員数の変化					
目標値：	平成 28 年度	65 人	⇒	平成 33 年度	90 人	
進捗状況：	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	
人	人	人	人	人	人	

事業22:	春・秋祭り・元旦祈願に使用する用具の修繕及び公開事業	実施団体:	松蔭伝統行事保存会		
事業区分:	用具等整備	事業期間:	平成 29 年度 ~ 平成 33 年度		
事業概要:	松蔭地区での春季・秋季の伝統的な祭礼で使用してきたふとん太鼓・獅子・だんじりが経年劣化で傷んでおり、行事に使用する際に支障が出るため修理する。また修理現場の一般公開を実施する。行事の歴史、生い立ちや経過を学習することにもなり、郷土や行事への愛着・継承意欲の育成を図る。また太鼓、獅子技能取得者により、保存会員40名程への技芸の継承も行うとともに、保存会員、男女を問わず乗子を募集し、伝統行事の継承、活性化につなげる。				
評価指標区分:	・保存会会員数の変化(維持)		(具体的な指標は次のとおり)		
具体的な指標:	松蔭伝統行事保存会の現会員のうち、高齢の会員が脱退した際にも会員数が減少しないように入会者を増やし、また維持する。				
目標値:	平成 28 年度	156 人	⇒	平成 33 年度	160 人
進捗状況:	各年度、状況値、目標に対する達成率				
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度
人	人	人	人	人	人